

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3790100337		
法人名	医療法人社団 純心会		
事業所名	グループホーム語り愛		
所在地	高松市円座町字道下288-1		
自己評価作成日	平成29年9月6日	評価結果市町受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成29年10月25日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人理念である「信頼される医療 想いとやさしさの伝わるケア 私たちはそれを目指します」および事業所理念「ふれあい 語りあい 支え合い 笑顔あふれる豊かな暮らし 私たちはそれを支援します」を念頭に、利用者様お一人お一人に寄り添ったケアを行っています。家事や趣味等、ご利用者様の可能な活動を援助することにより、生きがいや役割を持った生活を送られ、また、買い物やドライブ、地域の催し等への外出や、季節の行事等も楽しんで頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

事業所は、平屋の準耐火木造の建物で、広い芝生の庭やベランダがあり、敷地には木々や草花が植えられ、季節感を感じられるよう工夫されている。広々とした玄関ホールには、ソファが設置され、家族との面会に使用されている。廊下やリビングは広く明るい空間となっている。独立したカラオケルームがあり、利用者は、カラオケや家族との面会に使用している。運営している医療法人は、介護老人保健施設や認知症対応型グループホームなどを運営しており、経験を活かして利用者の支援に取り組んでいるとともに規程やマニュアルが整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で決めた事業所理念を朝礼で唱和することで、理念を念頭においた業務が行えている。	事業所理念「ふれあい 語りあい 支え合い 笑顔あふれる豊かな暮らし 私たちはそれを支援します」を、朝礼で唱和している。理念は、玄関ロビーやユニットの台所に掲示するとともに、職員の名札に記載して周知している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流会を開いたり、地域の催しへ利用者様と一緒に参加している。	夏祭りやクリスマス会などの事業所行事に地域の方を招待して、交流を図っている。地域の文化祭などの行事に、利用者が参加できるよう支援し、大正琴や四重奏などのボランティアの訪問がある。敷地内にあるカラオケルームを地域の住民との交流に活用している。	個別の利用者を想定した具体的なボランティア募集など、利用者の個別支援に地域のボランティアの活用を検討されることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議等、地域の方が来られた際にホームでの取り組みや日々のケアの中での気づきなどを共有している。また、見学に来られた方や、電話でお問い合わせがあった方等に、出来得限りの情報を伝えるようにしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事・活動のご報告、事故や災害対策等について話し合いを行い、アドバイスも頂きながらサービス向上に活かしている。	運営推進会議は、利用者、家族、老人クラブや自治会などの地域団体代表、民生委員、行政職員等が参加し、2か月に1回開催している。会議では、利用者の状況や事業所の行事等を報告するとともに、事故や災害対策等について協議し、参加者の意見をサービス向上に活かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に出席して頂いたり、介護保険課の方にも適切な運営のために助言や指導を頂いている。	地域包括支援センター職員が、運営推進会議に出席している。運営や支援について、市担当課職員に相談し、協力関係を築くよう取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。また、内部研修でも身体拘束の弊害等について学んでいる。	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束・虐待防止委員会を毎月開催して身体拘束をしないケアに取り組んでいる。身体拘束の弊害について研修会を開催し、職員が正しく理解できるよう努めている。安全のため身体拘束をやむを得ず行う場合は、家族の同意を得て行っている。玄関は施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け、虐待に繋がる事のないようケアへの取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で倫理規定や人権擁護について理解を共有できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談時から契約に至るまで、本人や家族に見学をして頂くと共に、パンフレットや重要事項説明書等を用いて話し合いをし、質疑に応じるようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートの実施などにより意見を出しやすいようにしている。また、面会に来られた時や電話等、お話をする機会があればお気づきの点がないか伺うようにしている。	玄関に「ご意見箱」を設置している。利用者に関き取りによるアンケートを実施して、外出などの要望を把握している。家族からは、面会時や電話により希望や要望を把握している。玄関に運営規程や外部評価結果を備えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は朝礼やミーティング時に職員全体の意見を聞き、サービスの質の向上のためになることは取り入れている。また、法人からは定期的に視察にくる事により現状の把握、職員からの意見を共有、反映できるようにしている。	管理者は、各種会議や日常の支援の際に職員の意見の把握に努めている。法人の事務局長が2週間に一度、事業所を訪問し、事業所の状況、職員からの意見や要望の把握に努めている。職員の意見を反映し、備品を購入したことがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や実績の把握に努め、賞与や昇進等に反映させている。また、法人からの視察時に現状把握や相談などが行われている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また、法人で介護職員初任者研修を開き、職員の受講を奨励している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や連絡会などで、他事業所の職員との意見交換を通じて、自事業所の改善点など気づきを活かしていくようにしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時から契約に至るまで十分にコミュニケーションを図り、本人の要望等をよく聞き、それらへの対応方法をしっかりと示すことにより、安心頂けるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学時に家族からの要望等を伺い、疑問点があれば解消して頂けるまで話し合い、安心してサービスを利用して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや心身の状況、家族の思いも伺いながら、本人や家族にとってより良いサービスに繋げられるよう助言や紹介を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、自立支援が大切であることを念頭に置いて接している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のより良い生活の為には家族との協力は必要不可欠であり、意識の共有が図れるようコミュニケーションを取っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等に面会して下さるようお願いをしたり、行事に招待する等、家族も来訪しやすくなるように試みを行っている。	施設の行事を家族に案内している。家族や友人に面会を依頼している。希望によりなじみの美容室や場所への外出支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、利用者主体で楽しく交流が図れるよう、また、トラブルのないよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も転居先での様子を覗いたり、困っている事や上手くいかない事があればご相談を頂けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを察し、意向に沿えるように努めている。	入所時に利用者の希望や意向を、日常の支援の中で利用者の思いを把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用していたサービス事業所等より生活歴や生活環境等の情報を収集し、ケアに反映出来るようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの毎日の健康状態や精神状態を、記録や申し送りを通じて共有することで気づきに繋げ、対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や随時の話し合いを行い、本人・家族の意向や意見を反映した介護計画になるように努めている。	介護計画は、3か月に一度見直しを行っている。介護記録や関係職員の意見を参考に介護計画を作成し、サービス担当者会議などで家族の意見を反映した介護計画の作成に努めている。利用者の状況の変化等で介護計画の見直しが必要な場合は、随時見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や、本人の言葉、職員の気づきなどを記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行援助や入院中の支援、買い物援助などに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々を招き、歌や踊りを楽しんで頂いたり、最寄りの商店への買い物同行や訪問販売の受け入れ等、社会との繋がりを維持するよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での医療が受け続けられるように受診援助等を行っている。	利用者や家族が希望するかかりつけ医での受診を尊重している。事業所の協力医での受診を希望した場合は、月1度内科医の往診がある。協力医以外での受診は家族に依頼し、受診結果は情報共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や通院先の看護師に日々の状態の報告や相談を行い、アドバイスを受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護状況を共有できるように努めている。また、家族や医療機関から情報を得て、入院中の状況把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応については、かかりつけ医や訪問看護、家族と話し合い、関係者全体で方針を決め、変化していく状況の共有も行うようにしている。	重度化した場合や終末期に事業所ができる範囲を入所時に家族に説明している。重度化した場合は、家族やかかりつけ医などの関係者と協議し、改めて方針を確認するようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って、職員全体に周知している。また、急変時の対応についての内部研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民や消防署の協力も得て、利用者と共に防災訓練を行っている。	災害対応マニュアルを作成している。年2回消防署や地域住民の協力を得て、火災や地震想定での防災訓練を実施しており、利用者も参加している。オール電化、準耐火木造の平屋の建物は、廊下が広く避難しやすい。	大規模震災を想定した職員、利用者家族との連絡体制の整備や停電した状況下での避難訓練など、より具体的な災害対策に取り組むことを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりの性格に合わせた声かけや対応を行い、自尊心を傷つけることのないように心がけている。	倫理規程に利用者本位の支援を行うよう明記している。接遇マニュアルによる自己点検を行い、利用者一人ひとりの人格を尊重した支援が行われるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自主的な発言が頂けるように接している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、無理強いせず、出来るだけ本人のペースや希望に沿った過ごし方をして頂けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみについて、こちらから取り決める事はせず、以前から愛用して来た服装、今まで通りの髪形やおしゃれをすることを支援している。また、希望される方にはマニキアやお化粧も援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向に応じて、調理や盛り付け、後片付け等を行って頂いている。また、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく会話をしながら安全に食事が出来ている。	メニューは法人本部の管理栄養士が作成しているが、アンケートをもとに少しアレンジすることがある。主食は各ユニットで調理し、副食は二つのユニットの職員が協力して調理している。利用者の意向を確認して、調理、盛り付け、片付けをすることが可能な利用者が行っている。職員も利用者と一緒に食事し、会話をしながら食事を楽めよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認、記録し把握している。摂取量が少ない方は、ご家族とも相談のうえ、本人の好むものを準備し、栄養が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミング良くトイレ誘導する事心がけ、失禁軽減やおむつ類の使用軽減を図っている。	介護記録をもとに、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけによるトイレ誘導を行っている。声かけによるトイレ誘導により、パットの使用量や失禁の回数が減少した利用者がある。二つの居室の間にトイレを設置し、全ての居室がトイレに隣接しており、利用しやすい環境である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事やおやつに食物繊維の多い食材を取り入れたり、散歩や体操等の適度な運動により自然排便できるよう援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で時間帯や回数など、利用者一人一人の希望に合わせて入浴して頂けるよう支援している。	入浴は午前中であり、一日おきに入浴できるよう支援している。できるかぎり入浴回数や午後からの入浴希望に対応するよう努めている。電動リフトを設置している浴室があり、普通浴での入浴が困難な利用者の入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設側の都合を優先する事無く、昼寝の習慣のある方や、体調に応じて、日中も休息が出来るように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の追加や変更等について職員が把握できるように細かく申し送りを行っている。また、職員がいつでも確認できるように服薬説明書をファイルに綴じている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯、掃除などの家事を無理のない範囲で行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。また、昔から馴染みのある遊びや利用者が興味を持てる様な楽しみごとを模索している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等の外遊や外気浴の機会を楽しんで頂いている。初詣や紅葉狩り、地域のお祭りなど季節毎に出かける援助をしている。	初詣や紅葉狩り、地域のイベントなど外出行事を2か月に一度程度行っている。気候の良い時期は、広い庭やウッドデッキでの外気浴を行っている。ドラッグストアやコンビニエンスストアでの買い物は、個別に外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談もしたうえで、少額を所持して頂き、コンビニやスーパーでの買い物を援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で家族へ電話をして頂いている。また、携帯電話を所持し、自由に電話やメールを楽しんでいる方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには植物や小物を飾ることで季節感、生活感を出している。対面式のキッチンで調理をする事により、生活感も出て、食欲の増進にも繋がり、家事参加へのきっかけにもなっている。	平屋の準耐火木造の建物で、広い芝生の庭やベランダがあり、敷地内は木々や草花が植えられ、季節感を感じられるよう工夫されている。広々とした玄関ホールには、ソファが設置され、家族との面会に使用されている。廊下やリビングは広く明るい空間となっている。独立したカラオケルームがあり、利用者は、カラオケや家族との面会に使用している。廊下やリビングには、絵画や季節の花、利用者の作品が飾られており、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングのソファ、庭のベンチ、図書コーナー等、利用者がそれぞれ一人でくつろいだり、仲の良い方と会話を楽しんだりできる場所がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やテレビを置いたり、家族の写真や好みの小物、観葉植物を飾る等、居心地良く過ごせるようにしている。	各居室には、ベッド、洗面台、タンス、イスが設置され、大きな窓から段差なくベランダに出ることができる。入所時に、利用者が落ちて暮らせるように使い慣れた家具や小物の持ち込みを家族に説明しており、冷蔵庫やテレビ等が持ち込まれ、心地よく暮らせるよう工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がなく安全に過ごせる。また、居室やリビングから段差なくテラスに出られ、広い庭を散歩することができる。毎日の掃除で居室内も危険のないよう環境整備している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価結果

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
I. 理念に基づく運営			
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全体で決めた事業所理念を朝礼で唱和することで、理念を念頭においた業務が行えている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々との交流会を開いたり、地域の催しへ利用者様と一緒に参加している。また、ご家族の協力もあって、頻繁に外出される利用者もおられる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行事や運営推進会議等、地域の方が来られた際にホームでの取り組みや日々のケアの中での気づきなどを共有している。
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の状況や行事・活動のご報告、事故や災害対策等について話し合いを行い、アドバイスも頂きながらサービス向上に活かしている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議に出席して頂いたり、介護保険課の方にも適切な運営のために助言や指導を頂いている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束・虐待防止委員会を設け、身体拘束をしないケアへの取り組みを行っている。また、内部研修でも身体拘束の弊害等について学んでいる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・虐待防止委員会を設け、虐待に繋がる事のないようケアへの取り組みを行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部研修で倫理規定や人権擁護について理解を共有できるよう努めている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用相談時、本人や家族に見学をして頂くと共に、パンフレットや重要事項説明書等を用いて話し合いをし、質疑に応じるようにしている。
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見箱の設置やアンケートの実施などにより意見を出しやすいようにしている。また、面会やお電話等でお話をする機会があればお気づきの点がないか伺うようにしている。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼やミーティング時に職員全体の意見を聞き、サービスの質の向上のためには取り入れている。また、法人からは定期的に視察にくる事により現状の把握、職員からの意見を共有、反映できるようにしている。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、職員の努力や実績の把握に努め、賞与や昇進等に反映させている。また、法人からの視察時に現状把握や相談などが行われている。
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修にできるだけ多くの職員が参加できるようにしている。また、法人で介護職員初任者研修を開き、職員の受講を奨励している。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修や連絡会などで、他事業所の職員との意見交換を通じて、自事業所の改善点など気づきを活かしていくようにしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用相談時に十分にコミュニケーションを図り、本人の要望等をよく聞き、それらへの対応方法等をしっかりと示すことにより、安心頂けるよう努力している。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	問い合わせや見学時に家族からの要望等を伺い、安心してサービスを利用して頂けるよう信頼関係の構築に努めている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の思いや心身の状況、家族の思いも伺いながら、本人や家族にとってより良いサービスに繋げられるよう助言や紹介を行っている。
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩として尊敬し、自立支援が大切であることを念頭に置いて接している。
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のより良い生活の為には家族との協力は必要不可欠であり、意識の共有が図れるようコミュニケーションを取っている。
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等に面会して下さるようお願いをしたり、行事に招待する等、家族も来訪しやすくなるように試みを行っている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を理解し、利用者主体で楽しく交流が図れるよう、また、トラブルのないよう支援している。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用終了後も転居先での様子を覗いたり、困っている事や上手くいかない事があればご相談を頂けている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いを察し、意向に沿えるように努めている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、利用していたサービス事業所等より生活歴や生活環境等の情報を収集し、ケアに反映出来るようにしている。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの毎日の健康状態や精神状態を、記録や申し送りを通じて共有することで気づきに繋げ、対応できるようにしている。
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議や随時の話し合いを行い、本人・家族の意向や意見を反映した介護計画になるように努めている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活の様子や、本人の言葉、職員の気づきなどを記録し、職員間で情報を共有し、介護計画の見直しに役立てている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診同行援助や入院中の支援、買い物援助などに取り組んでいる。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方々を招き、歌や踊りを楽しんで頂いたり、最寄りの商店への買い物同行や訪問販売の受け入れ等、社会との繋がりを維持するよう努めている。
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族が希望するかかりつけ医での医療が受け続けられるように受診援助等を行っている。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	通院援助や往診時の看護師に日々の状態の報告や相談を行い、アドバイスを受けている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には、介護状況を共有できるよう努めている。また、家族や医療機関から情報を得て、入院中の状況把握に努めている。
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	急変時の対応については、かかりつけ医や訪問看護、家族と話し合い、関係者全体で方針を決め、変化していく状況の共有も行うようにしている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルに沿って、職員全体に周知している。また、急変時の対応についての内部研修を行っている。
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近隣の住民や消防署の協力も得て、利用者と共に防災訓練を行っている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、利用者一人ひとりの性格に合わせた声かけや対応を行い、自尊心を傷つけることのないように心がけている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定ができるように利用者一人ひとりに合わせた声かけを行い、自主的な発言が頂けるように接している。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れはあるが、無理強いせず、出来るだけ本人のペースや希望に沿った過ごし方をして頂けるようにしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	服装や身だしなみについて、こちらから取り決める事はせず、以前から愛用して来た服装、今まで通りの髪形やおしゃれをすることを支援している。また、希望される方にはマニキュアやお化粧品も援助している。
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	本人の意向に応じて、調理や盛り付け、後片付け等を行って頂いている。また、職員も一緒に食卓を囲み、楽しく会話をしながら安全に食事が出来ている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量を確認、記録し把握している。摂取量が少ない方は、ご家族とも相談のうえ、本人の好むものを準備し、栄養が確保できるように支援している。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアの声かけや介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、タイミング良くトイレ誘導する事心がけ、失禁軽減やおむつ類の使用軽減を図っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防のために食事やおやつに食物繊維の多い食材を取り入れたり、散歩や体操等の適度な運動により自然排便できるよう援助している。
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	出来る範囲で時間帯や回数など、利用者一人一人の希望に合わせて入浴して頂けるよう支援している。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	施設側の都合を優先する事無く、昼寝の習慣のある方や、体調に応じて、日中も休息が出来るように支援している。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の追加や変更等について職員が把握できるように細かく申し送りを行っている。また、職員がいつでも確認できるように服薬説明書をファイルに綴じている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	料理や洗濯、掃除などの家事を無理のない範囲で行って頂き、感謝の気持ちを伝えるようにしている。職員と共同での作品作りも楽しんで頂いている。
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブ等の外遊や外気浴の機会を楽しんで頂いている。初詣や紅葉狩り、地域のお祭りなど季節毎に出かける援助をしている。

自己	外部	項目	自己評価
			実践状況
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との相談もしたうえで、少額を所持して頂き、コンビニやスーパーでの買い物を援助している。
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者からの希望で家族へ電話をして頂いている。また、携帯電話を所持し、自由に電話をされている方もおられる。
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やリビングには植物や小物を飾ることで季節感、生活感を出している。対面式のキッチンで調理をする事により、生活感も出て、食欲の増進にも繋り、家事参加へのきっかけにもなっている。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関ホールやリビングのソファ、庭のベンチ、図書コーナー等、利用者がそれぞれ一人でくつろいだり、仲の良い方と会話を楽しんだりできる場所がある。
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた鏡台やテレビを置いたり、家族の写真や好みの小物、観葉植物を飾ったり、水槽で金魚を育てている方もおられ、居心地良く過ごされている。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は段差がなく安全に過ごせる。また、居室やリビングから段差なくテラスに出られ、広い庭を散歩することができる。毎日の掃除で居室内も危険のないよう環境整備している。